高等学校 × 情報

情報どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。

変わる所 4項目　解説PDF 1件



10秒でいうと

情報Ⅰ・Ⅱの構成は維持。AI・データサイエンスを加え、両科目の最後にPBL（課題解決学習）

高校の情報科は、情報Ⅰ（必履修）と情報Ⅱ（選択）の構成を維持する方向です。そのうえで、AIやデータサイエンスに関する内容を新たに加えます。情報Ⅰ・Ⅱとも、最後に学んだことを総合的に使うPBL（課題解決型の学習）の項目を置く案です。情報Ⅱは、一定の幅で単位数を柔軟に配当できる方向です。AI時代でも、プログラミングの学習は大切とされています。

どこが変わる？現行⇔次期（高等学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

情報活用能力のとらえ方

現行

「情報及び情報技術を活用する力」として、学習の基盤となる資質・能力に位置付け。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

情報活用能力は「**情報技術の活用**」に絞って整理し、「情報の活用」は各教科で育てる。「活用」「適切な取扱い」「特性の理解」の3要素で小中高を通して整理。

P238　P239

高校情報科の科目と単位

現行

情報Ⅰ（共通必履修、2単位）と
情報Ⅱ（選択、2単位）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

情報Ⅰ・情報Ⅱの構成は維持し、
標準単位数はともに**4新単位**
（1新単位=17コマ）。情報Ⅱは
追加で単位を配当できる例を
解説等で示し、柔軟に
配当できるようにする案。

P80 P82 P242 P256

高校情報科の内容項目

現行

情報Ⅰは「情報社会の問題解決」
「コミュニケーションと
情報デザイン」「コンピュータと
プログラミング」
「情報通信ネットワークとデータの
活用」の4項目。AIやデータの
学習、探究的な学びが十分でなく、
仕組みやセキュリティが
複数項目に分散。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

情報Ⅰは「情報の仕組みと社会との
関わり」「情報デザインと
デザイン思考」「データ分析と
モデル化・シミュレーション」
「アルゴリズムとシステム開発」
「**PBL**による課題解決の実践」。
情報Ⅱには「社会課題と
データサイエンス」「**AI**」などを
新設する案（すべて仮称）。

P242 P255 ※現行の内容項目は資料編m3 P149

プログラミング的思考

現行

前回改訂で小・中・高を通じた
プログラミング教育を充実したが、
内容や指導にばらつきがあり、
問題解決にプログラミングを使う
学習も十分でない。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

AIへの指示も含め、作ったものを
論理的・批判的に**評価・改善**し、
責任を持って使うまでを
含む考え方に捉え直し、
小学校だけでなく中学・
高校でも育てる。

P249

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの高等学校の情報の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **情報編**
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編

学習指導要領の本文

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

高等学校の情報の指導案（試案）



高　情報Ⅰ　1年

シミュレーションで改善策を試す

本時のねらい 購買の待ち時間を表すモデルを要素と仮定を明示して作成し、生成AIが示したモデルの誤りを見つけて直したうえで、条件を変えたシミュレ…

指導案を見る →

もっとくわしく

情報の変更点（くわしく）　新旧比較（全校種）　高等学校の先生へ
資料室（高等学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。